

教えて!ドクター

喜多岡先生

Q&A



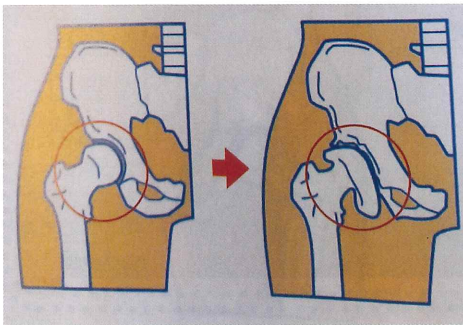
整形外科医師

喜多岡 亮太

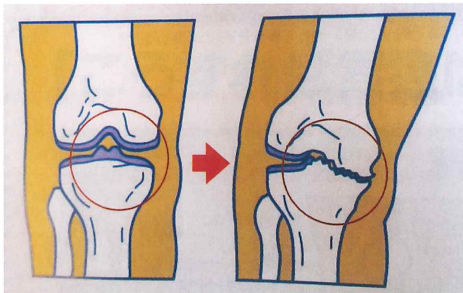
## 変形性股関節症、膝関節症

### Q 変形性股関節症、膝関節症について

変形性関節症とは、関節の中で緩衝材の役割を果たしている軟骨がすり減ることで、関節が変形し、痛みや運動障害を引き起こす病気です。体中のどの関節にも起こりうる病気ですが、体重のかかる股関節や膝関節に特に多いとされており、日本で変形性股関節症の患者さんは約400万人、変形性膝関節症の患者さんは約2500万人いるといわれています。女性に多いのも特徴の一つです。



変形性股関節症



変形性膝関節症

### Q 検査について

まずは診察で関節の動く範囲や痛い場所を確認し、痛みがある関節の単純レントゲン写真で骨や軟骨（骨と骨の間）がどれくらい損傷しているかをチェックします。必要があればCT検査やMRI検査、関節液検査などを追加で行う場合もあります。

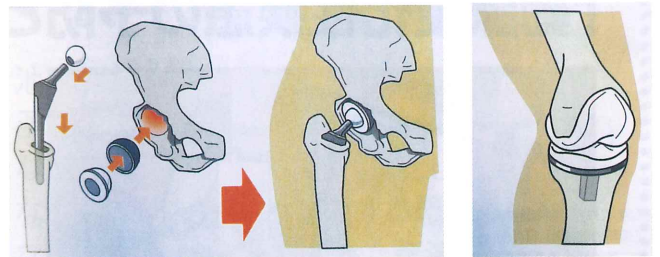
### Q 治療について

変形性股関節症も膝関節症も、治療の第1歩は保存療法です。一旦すり減ってなくなってしまった軟骨を再生させることはできないため、関節内の炎症を落ち着けることで痛みを軽減し、関節の負担を減らすことでさらなる進行を予防するのが目的になります。具体的には消炎鎮痛剤の内服や、体重コントロール、リハビリテーションによる関節拘縮の予防、筋力訓練などを行います。それでも痛みが続く場合はヒアルロン酸等の関節内注射を行うこともあります。同じ注射治療ですが最近では患者さん自身の血液を採取し、そこから炎症を抑える成分のみを取り出して関節内に注射する治療法（APS療法：Autologous Protein Solution）も注目されています。まだ保険適応ではない治療ですが少しずつ有効性が確認されてきており、当院でも導入しています。

保存治療を行っても強い痛みが続く場合は、手術治療を行います。変形性関節症に対する手術治療として最も一般的なものは人工関節置換術です。変形してしまった関節の傷んでいる部分を人工関節に置き換えることにより、体重をかけたり動かしたりしても痛みのない関節にすることができます。これまでは人工関節の摩耗や耐久性が問題になっていましたが、インプラントが改良されこの20年ほどで耐久性はかなり向上し、比較的若年の患者さんにも人工関節手術をお勧めできるようになってきています。

レントゲンで骨や軟骨がかなり損傷していてもそこまで痛みが辛い患者さんもいれば、逆にレントゲンではそこまで進行していないのにとっても痛みが強く辛い患者さんもいます。どこまで治療を行うかは患者さんがどれくらい困っているかによって一人一人異なるため、股関節や膝関節の痛み、動かし辛さで少しでも悩まれている方はぜひ一度ご相談ください。

### 人工関節置換術



股関節

膝関節

整形外科外来  
月曜日～金曜日  
(予約のみ)